

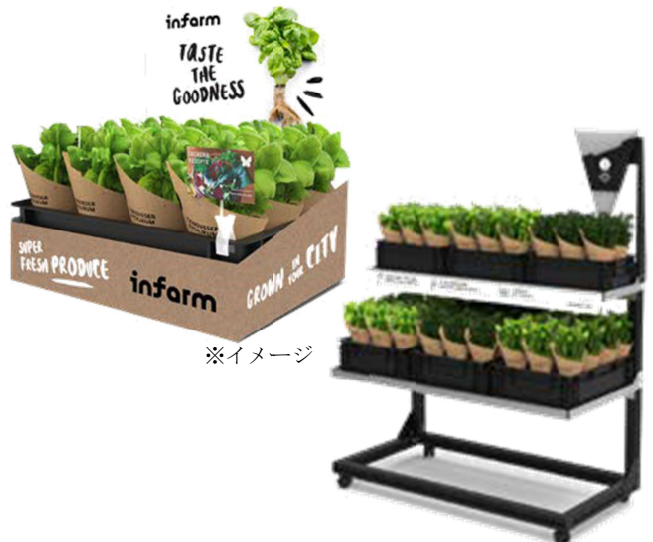
2020年2月26日

紀ノ国屋の店舗内に、ベルリン発「次世代型地産地消」コンセプトにした、 野菜栽培ユニットを日本初導入！

株式会社紀ノ国屋（東京都港区北青山 3-11-7 代表取締役社長：堤口貴子）は 2020 年夏、ベルリン発、次世代型屋内垂直農法を手掛ける Infarm - Indoor Urban Farming GmbH（本社：ドイツ連邦共和国ベルリン、以下「インファーム」）の野菜栽培ユニットを日本初導入し、インファームが栽培を手掛けた鮮度の高い野菜を“採れたて”のままお客さまにお買い求めいただくサービスを一部店舗で開始いたします。この取り組みは、東日本旅客鉄道株式会社（以下「JR 東日本」）とインファームとの資本提携により、JR 東日本グループが掲げるグループ経営ビジョン「変革 2027」のもと実現しました。インファームの野菜は、店舗に栽培ユニットを設置することで産地からの輸送で生じる Co2 や、流通過程で生じる劣化等の廃棄ロス削減を目指します。また、お客さまに目で見て楽しんでいただけることや、安全で風味鮮やかな野菜の提供を通じて、新しいお買い物体験ができる場所として紀ノ国屋の新たな魅力を発信してまいります。



※イメージ



※イメージ

※イメージ

- 【導入開始時期】 2020年夏より開始予定
- 【導入店舗】 現在検討中
- 【取り扱い商品】 ハーブ類やレタス類を中心に現在、品ぞろえを検討中

InFarm について



2013年にエレッツ・ガロンスカ、ガイ・ガロンスカ、オスナット・ミカエリによって創業されたインファームは、最先端の研究開発と様々な分野の一流の専門家からなるチームによって、都市の食糧自給を促進し、食品の安全性、品質、そして環境負荷を大きく改善することをミッションとしています。IoT技術と機械学習技術を高効率の野菜栽培ユニットで活用、天候に左右されず、栽培状態が見え、リーズナブルな価格を実現する全く新しい栽培システム“Farming as a Service”を提供しています。